



三蔵五訓

真理を探究し,道理を実践する。
豊かな品性を養い,不屈の魂を育てる。
生命を尊重し,自然を畏敬する。
個性を伸展し,紐帯性を培う。
未来を志向し,可能性に挑む。

2025.3.20 Vol.183

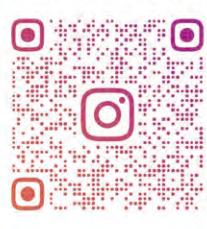


祝 卒業

令和6年度	学位記授与式	学長式辞	1
令和6年度	学位記授与式	理事長祝辞	2
令和6年度	学位記授与式	福山市長祝辞	3
令和6年度	学位記授与式	福山商工会議所会頭祝辞	4
令和6年度	学位記授与式	在学生送辞・卒業生答辞	5
令和6年度	学生表彰 (卒業生・修了生)			7

ご卒業おめでとうございます

学内情報を発信します。
是非ご覧ください。



福大で結ばれた絆を大切にして、さらなる高みを目指そう！

令和6年度 学位記授与式 学長式辞



学長 大塚 豊

福山大学を卒業され、学士あるいは修士の学位を授与された皆さん、おめでとうございます。このたび学士課程を卒業する人は734名、大学院の修了者は14名です。また、今まで学業に打ち込む皆さんを物心両面から支援して下さり、この晴れの日を皆さんと共にお迎えになった保証人の皆様にも、本学の教職員を代表して、お祝いの気持ちとともに、長年にわたる本学へのご支援に対する感謝の意を表したいと思います。

本学は今年4月で創設から50周年を迎えます。大学の起源を中世ヨーロッパに誕生した学びの場、ボローニア大学やパリ大学等、いわゆるストゥディウム・ゲネラーレに求めるとして、それ以来の何百年にもわたる大学の歴史から見れば、本学は未だ若い大学です。しかし、歴史の長い短いに関わりなく、そこに集う者が共同して学び、切磋琢磨して真理を探求していく場であるという点で、本学は堂々たる歴史を刻んでいます。

さて、ここに集う皆さんのが入学された4年前、ちょうど学長に就任して初めての入学式に臨んだ私は「少年老い易く学成り難し、一瞬の光陰軽んずべからず」という中国の諺に言及して、怠け心は禁物ですと説きました。皆さんの中で、在学中、自分なりに良く頑張ったと思える人はどれ程いらっしゃるでしょうか。併せて、あの日、大学教育の究極の目標は、「教養ある人」を育てることだと私は考えていると話しました。目まぐるしく変化する世界や自らの身の周りの状況の中で、また、「フェイクニュース」と呼ばれる虚偽の情報も含めて、膨大な情報が飛び交う時代に求められる「教養」とは何かに触れて、「地球規模の視野、歴史的な視点、多元的な視点で物事を考え、未知の事態や新しい状況に的確に対応していく力」と表現しうるだろうと申しました。もっと具体的に言えば、①社会と関わりつつ、自己を位置づけてコントールする力、②自己と他国、あるいは単に異なる国という意味だけでなく、もっと広く、異なる性・世代・言語・宗教・価値観・生き方・習慣など「自分とは異なる他者」を深く理解し尊重しうる力、③自然や物の成り立ちを理解し、論理的に対処し、科学技術の功罪両面についての正確な理解力であると話したことでした。きっと多くの皆さんが「教養ある人」となるため、それぞれ努力を積み重ねて来られたのだと思います。

どうぞ本日までに培った知見や学びの成果を、これから社会のために役立てて頂きたいと思います。皆さんのが本学で学んだ事柄と、これからのお仕事や生活の中で取り扱い、あるいは挑戦しなくてはならない課題とは、人によって、その大きさ

や度合いが様々だと思います。しかし、どういう環境、どういう状況であれ、学びの成果を活かして常に現状に満足することなく、よりいっそうの高みを目指して欲しいのです。ようやく一つの課程を終えた皆さんを前にしてこんなことを言うのはいささか酷ですが、生産の場、科学研究の世界、あるいは日常の生活場面でさえ関係する知識・技術は日進月歩です。今獲得したばかりの知識や技術もあつと言う間に陳腐化してしまいます。しかし、皆さんは卒業研究の過程をはじめとして、多くの学びの場面で未知の内容を自ら探し、その何たるかを知る術を学んだはずです。先人から伝えられた知識や技術を身に付けるだけでなく、自ら新しいものを手に入れる方法です。学びに終わりはありませんし、人がAIなどに負けることがあってはならないのです。

幸いなことに、本日卒業、修了されるほぼ全ての皆さんは、すでにこれから進むべき道が決まっています。本学卒業生の就職率は全国や広島県平均を大きく上回り、この10年余り、毎年ほぼ100%を達成しています。こうした毎年の積み重ねの結果、創立から半世紀のうちに、わが学窓を巣立った卒業生の総数は、すでに4万人を優に越えています。これら卒業生の中からは備後地域を中心に、全国至る所で、さらに世界の中で地域や組織のリーダーや中核的存在として活躍する人材が数多く生まれています。そして、この約10年の間に、同窓会組織が福山支部を皮切りに、香川、岡山、愛媛、沖縄の各地に設立されました。福山大学を母校とする皆さんと大学との絆が卒業を境に切れてしまうのではなく、末永く結ばれ続け、いつでも思い立って訪ねて見ようと思える関係こそ理想的と考えます。同窓会の活動にも是非とも積極的に参加してください。本学を通じて結ばれた絆をこれからも大いに活用してください。

アメリカの大学では卒業のことを、われわれが良く知っているグラジュエーションではなく、始まりを意味するコメントメントと呼びますが、まさに一つの段階を終え次の段階へ向かう出発、旅立ちなのであります、だからこそ目出度いのです。新しいことに挑戦し続けて下さい。福山大学も挑戦を続けます。福山大学はいつでも皆さんと共にあり、いつでも門戸を開いて皆さんを待っています。皆さんには、これからも本学の挑戦に積極的に関わって下さるよう、心からお願いします。

最後に、皆さんのがこれから日々が幸多きことを祈念して、私からの餞の言葉をいたします。

令和7年3月20日

実社会に羽ばたいていく 皆さんへ

令和6年度 学位記授与式 理事長祝辞



学校法人 福山大学 理事長

鈴木 省三

本日の令和6年度福山大学学位記授与式にあたりご挨拶申し上げます。卒業生・修了生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。ご臨席の保証人の皆さんにも心よりお慶び申し上げます。また、ご多用中にも拘わらずご来臨を賜りましたご来賓の皆さんに厚く御礼申し上げます。

さて、皆さんがこれから羽ばたいていく社会は、国内外を問わず、不確実性という霧に包まれています。日本国内では、生産年齢人口の減少問題と地域間格差の拡大、地域の弱体化等に起因する医療提供体制の確立問題、高齢化の進展と人生100年時代の到来等による社会構造・産業構造の変化など、様々な問題が山積しています。一方、海外に目を向けると、先進諸国においても既存の政治に対する不満や現状への閉塞感が高まり、大衆を扇動するような急進的かつ非現実的な政治思想であるポピュリズムが台頭していることが指摘されています。また、国家・民族間の紛争が未だに継続し、紛争の終焉が見通せない状況です。加えて、第二次世界大戦後の世界各国の共通原則であった「国際協調」と「自由貿易」という二大原則も揺らいでいます。さらに、新たなパンデミックの到来や気候変動がもたらす予想外の災害の発生への備えという課題の他にも、温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させる「カーボンニュートラル社会」の実現をはじめとする持続可能な開発目標(SDGs)の達成が地球規模で求められています。このように、国内外で不確実な時代の到来を迎えており、持続可能な社会の実現のためには、多様性を秘めたアクティブな人材として活躍することが社会から求められています。皆さんにおかれても、今後の輝かしい人生を過ごすためにも、大学までに身に付けられた「自分で情報を収集して、自分で考える」というアクティブ・ラーニングの姿勢と知識・技術、取得された資格等、またデジタル技術も活用されながら、持続可能な社会の創造に向け、ローカルにもグローバルにも活躍していただくことを心より期待申し上げております。

加えて、本日めでたく卒業の日を迎えた皆さんへの激励として申し上げたいのは、目先の利益に囚われた安易な考え方や行動ではなく、弛まず努力をする姿勢を大切にしてください。京セラとKDDIを創業して大企業へと成長させ、JALの経営再建も成し遂げた「経営の神様」である稻盛和夫氏の言葉をまとめた『誰にも負けない努力』という書籍では、稻盛氏の経営哲学の最も重要な根幹をなす「誰にも負けない努力をすることの意義と、組織を率いるリーダーあるいは今後リーダーになろうとする者の心構えが力強く説かれています。

その一節を紹介させていただくと、

「努力をして仕事を好きになる。本当に好きになったら、『誰にも負けない努力』ができる。そうして一生懸命に働く中で、創意工夫して仕事を進めるようになり、やがて素晴らしい成果もたらされる。また、自分の魂を磨き、美しい心をつくっていくことにもなる」とあります。卒業生・修了生の皆さんは、これから進路先で様々な組織に所属し、社会の一員として組織を発展させる役割を担っていきます。これらの長い人生において、皆さんに物心両面で豊かな人生を送っていただくためにも、誰にも負けない努力を通じ「揺るぎなく前進」されることを心より願っております。

そして福山大学の卒業生として、福山大学創設者の宮地茂先生が表明された「三蔵五訓」、すなわち、

- 一、真理を探究し、道理を実践する
- 一、豊かな品性を養い、不屈の魂を育てる
- 一、生命を尊重し、自然を畏敬する
- 一、個性を伸展し、紐帶性を培う
- 一、未来を志向し、可能性に挑む

という理念をこれからも胸に刻み、実社会に羽ばたいてください。本学在学中に得た恩師・学友との絆はこれから的人生において貴重な宝であり、同窓会を通じて交流を深めていただき、自らを発展させるための糧としてくださるようお願いいたします。そして、いつでも気軽にこのキャンパスに足を運び、恩師に元気な顔を見せていただければと思います。皆さんのご活躍が、後輩諸君の一層の成長と学校法人福山大学の益々の発展に繋がるものと考えます。どうか皆さんには、令和7年度に開学50周年を迎える、これまで4万人を超える卒業者・修了者を輩出してきた福山大学の同窓生としての誇りをもって、地域社会の発展に貢献する貴重な存在として活躍されることを心から期待申し上げます。

最後になりますが、これまで慈しみ育てていただいたご家族への感謝の気持ちを大切にしてくださるようお願いするとともに、皆様方の益々のご健勝とご活躍を祈念申し上げ、お祝いと激励の気持ちを込めて、ご挨拶とさせていただきます。

令和7年3月20日

令和6年度 学位記授与式

祝　辞



福山市長 枝広 直幹

皆様、御卒業、誠におめでとうございます。日々努力を重ね、こうして晴れの日を迎えたことを心からお慶び申し上げます。また、これまで皆さんを温かく見守り、支えてこられた御家族の皆様にもお祝いを申し上げます。そして、熱意と愛情を持って指導にあたってこられた学長をはじめ諸先生方に、深い敬意を表します。

皆様は、福山大学の建学の精神である「全人教育」のもとで、専門的な知識や技能のみならず、リーダーシップや語学力、豊かな人間性や創造的思考力など、これから羽ばたこうとする社会において必要となる実践力を身に付けてこられました。

これからも、人口減少、少子高齢化が進行するなど、社会経済環境は大きく変化していきますが、学問を通じて身に付けた高い人間力で様々な困難を乗り越え、日本のみならず世界に貢献されることを期待しています。

さて、今年の5月には、市内外の多くの人がばらの魅力に触れる「Rose Expo FUKUYAMA 2025」と本市初の本格的な国際会議である「第20回 世界バラ会議福山大会」が開催されます。戦後復興と平和への願い

を込め、荒廃したまちに市民が植えた1,000本のばらから始まった本市の「ばらのまちづくり」を、世界が評価したためです。先人たちがこれまで積み重ね、未来を託してきた取組が、今、大きな花を咲かせようとしています。大会を成功させ、国際都市としての新たな一步にしてまいります。

新たな世界に船出する皆様には、自身の手で未来を切り拓き、夢の実現に向けて大いにチャレンジしていただきたい。そして、社会に出られてからも、時には福山のことを懐かしく思い出し、またいつかチャンスがあれば、福山市のまちづくりに貢献していただけることを切に願っております。

結びに、皆様の御健康と御多幸をお祈り申し上げますとともに、福山大学の今後ますますの御発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

令和7年3月20日

令和6年度 学位記授与式

祝　辞



福山商工会議所 会頭 小丸 成洋

卒業生の皆さん、ご卒業誠におめでとうございます。また、ご家族ならびにご関係者の皆さんのお喜びもひとしおと拝察し、心からお祝いを申しあげます。

さて、わが国では、少子高齢化や人口減少による労働力不足、多発する自然災害や環境問題に加え、グローバル化やデジタル化による社会や経済の仕組みが急速に変化しております。このような変化は、地域社会においても大きな影響を与えておりますが、卒業生の皆さんには福山大学で磨かれた知性、創造性、人間性を発揮することで変化に対応し、新たな時代を切り拓き、未来への礎を築いていかれるものと期待しております。

福山商工会議所では、「政策提言」「中小企業等の活性化」「地域経済の活力強化」という3つの使命に対し、地域の皆さん方の声に耳を傾け、産・学・官・民の橋渡し役を担い、福山を一つのチームとし各種事業活動に取り組んでおります。こうした活動を地域の中小企業の皆さん方に支えていただくためには、専門的な知識だけでなく、技能やコミュニケーション能力などの人間力が備わった人材が必要であります。

福山大学におかれましては、昭和50年の開学以来、常に時代のニーズに応え、確かな人間力を身につける

ことができる全学的教育システムを構築され、新たな時代を担う優秀な人材を数多く産業界に送り出し、地域経済をしっかりと支えていただいております。皆さんの諸先輩方は、当地域をはじめ各地の企業で立派に責任を果たされ、高い評価を受けておられます。先輩方が積み重ねてきた信頼と実績を鑑とし、立派な社会人として日本経済の発展や地域の振興に貢献していくだけますよう、ご期待申しあげます。

さらに、福山大学は地域や地元企業との連携を強化することで、地域社会の発展に貢献されています。地域の課題解決に向けた研究やプロジェクトに積極的に取り組み、学生の皆さんには実践的な経験を積むことで、実社会で即戦力となるスキルを身につけています。卒業生の皆さんも、この経験を生かし、地域社会や産業界に新たな風を吹き込み、さらなる発展に寄与されることを期待しております。

結びに、卒業生の皆さんにおかれましては、社会の発展のために素晴らしいご活躍をされますことを心からお祈り申しあげますとともに、貴大学の今後ますますのご発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

令和7年3月20日

令和6年度 学位記授与式

在学生送辞



福山大学 在学生代表
薬学部 薬学科

古閑 翔太郎

冬の寒さも和らぎ春の訪れを感じるこの佳き日に、晴れて福山大学を卒業される先輩の皆様、誠におめでとうございます。在学生一同、心からお祝い申し上げます。

本日卒業される先輩方は、福山大学に入学されてから本日に至るまで、日々の勉学をはじめ、部活動やサークル活動、ボランティア活動など様々な分野でご活躍されてきました。この4年間又は6年間の大学生活では、多くの楽しい思い出や嬉しい思い出の他にも辛い思い出も少なからずあったことと思います。それらすべての経験が貴重な財産となり、これから大きな世界に羽ばたく皆様の礎となることを信じております。

私たち在学生は、勉学や研究、サークル活動などを通して、先輩方から非常に多くのことを教えていただきました。私の大学生活を振り返ってみると、研究について懇切丁寧に優しくかつ楽しくご指導くださったほか、就職活動など、多くの相談にも乗っていただき、先輩方は随所で私たち後輩に道を示してくださいました。私たちが道に迷わず大学生活を送ることができたのは、まっすぐ力強く歩んでこられた先輩方のおかげであると確信しております。私たち在学生は先輩方のご指導に心から感謝するとともに、後輩たちの手本となるような存在を目指して日々精進してまいりたいと思います。

さて、入学されてから本日に至るまで、新型コロナウ

イルスの蔓延やその他数々の苦難に直面してきました。感染予防のためにオンライン授業が導入され、普段とは異なる授業形態や試験様式で戸惑うこともあったかと思います。加えて、外出制限などの社会的規制も行われ、ご友人との交流やチャレンジしたいことにも制限がかかり、寂しい思いや悔しい思いを感じた方もおられるでしょう。しかし、そのような状況でもご自身にできることを模索し励むことで、今日こうして卒業を迎えられた先輩方にとっては、そういったことも全て大学時代の良き経験となられたことと思っております。

本日、このような、晴れの日を迎えた先輩方は、まもなく社会という大海原に乗り出すことになります。そこでは先輩方にとっては初めてのことばかりで、凧いだ時もあれば荒れる時もあると思います。しかし、私はどのような状況であっても、変化に順応し、自分が何をすべきかを追求することで未来を切り拓くことが出来ることと考えています。先輩方もご自身の信念に基づいて、様々な分野でご活躍されることを心より願っております。

最後に、先輩方の更なるご健勝とご多幸を心からお祈りし、僭越ではございますが、送辞とさせていただきます。

令和7年3月20日

令和6年度 学位記授与式

卒業生答辞



福山大学 卒業生代表
経済学部 経済学科

元廣 真衣

やわらかな日差しが心地よく、にわかに膨らんだ桜のつぼみが、春の訪れを感じさせる季節となりました。本日は、このような素晴らしい学位記授与式を挙行していただき、卒業生一同を代表して厚く御礼申し上げます。ここに、卒業の日を迎えたこと、大変嬉しく思います。

また、お忙しい中、理事長鈴木省三先生、学長大塚豊先生をはじめ、諸先生方にご臨席を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。先ほどは、理事長先生並びに学長先生より訓示と激励のお言葉を賜り、また在学生の方からは温かい励ましの言葉をいただき、重ねて御礼申し上げます。

振り返ると、4年前の春、私たちは真っ新たなスーツに身を包み、期待と不安を抱き入学式を迎えました。4年という時間はあっという間でしたが、多くの学びや経験、出会いがあり、かけがえのない時間となりました。入学した当初は、新型コロナウイルスにより、オンラインでの授業がほとんどで、パソコンに向き合う日々が続きました。今まで当たり前だと思っていた、友人や先生方と同じ空間で学ぶという日常がいかに尊いものであったか、ということを考えさせられました。大学生活では、高等学校までの生活とは異なり、履修選択や就職活動をはじめとする多くの場面において、能動的に考え、選択し、行動することが求められ戸惑うことも多々ありました。しかし、その反面、自らの行動や

選択に責任感を持つことや、人生について真剣に向き合うことなど、大きな成長に繋がりました。

学業では、専門的な知識や用語の難しさに頭を悩ませることもありましたが、友人たちと力を合わせ、互いに助け合い、共に励ましあうことで、強い絆を築くことができました。卒業に際して喜びを覚える一方で、友人たちとの別れに寂しさを感じずにはいられません。そんな仲間たちに、この福山大学で出会えたことを心から幸せに感じております。

今日、この日をもって私たち卒業生はそれぞれの夢に向かい、新しい道を歩んでいきます。これからそれぞれの場所で多くの人と出会い、学び、ときに戸惑い、悩むことと思います。そんな時には、福山大学で学んだことを思い出し、新たな仲間や先輩方と共に乗り越えていきたいと思っております。

結びにあたり、今日までお世話になりました諸先生方並びに職員の皆様、その他関係するすべての方々に感謝申し上げます。卒業生一同、福山大学の今後益々のご発展と、在学生の皆様のご活躍を心より祈念いたしまして、答辞とさせて頂きます。

令和7年3月20日

令和6年度 学生表彰(卒業生・修了生)受賞者一覧

【学長賞】

No	部 門	学部／研究科	学科／専攻	氏 名
1	学業部門	薬学部	薬学科	中谷 純人
2	学業部門	薬学部	薬学科	福島 彩花
3	学業部門	人間科学研究科	心理臨床学専攻	田中 咲妃
4	学業部門	工学研究科	情報処理工学専攻	田邊 基起

【奨励賞】

No	部 門	学部／研究科	学科／専攻	氏 名
1	学業部門	工学部	電気電子工学科	原 勇真
2	学業部門	薬学部	薬学科	藤井 悄一
3	学業部門	工学研究科	電子・電気工学専攻	行平 将望

※受賞者については、令和7年3月20日(木)の学位記授与式(卒業式)において表彰を行います。

編 集 後 記

卒業生・修了生の皆様、ご卒業おめでとうございます。福山大学で学ばれたことを糧として、今後益々ご活躍されることを心よりお祈り申し上げます。これからも福山大学を応援していただけますよう、よろしくお願ひいたします。

発 行 福山大学
編 集 福山大学広報委員会

〒729-0292
広島県福山市学園町1番地三蔵
TEL (084) 936-2111
FAX (084) 936-2213

<https://www.fukuyama-u.ac.jp>